とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	港区台場２-２-３
園名	アスクお台場保育園

１．活動のテーマ

<テーマ>

文化について

<テーマの設定理由>

園には様々な国にルーツを持つ子ども達や職員がおり、お台場という地域柄、散歩等で外国人観光客を見掛ける機会も多い。また、日々の保育活動の中で、地球儀・世界地図・世界の絵本等に興味を持つ様子があるため、様々な文化を知ることで自分の持つ文化にも気付き、相互理解を深めていく機会としたいと考えたため。

２．活動スケジュール

11 月：日本と他国の違いについて、知っていることや知りたいことを話し合った。
12 月：いろいろな国の食文化について調べ、発表した。
1 月：自分の国があったらどんな国が良いか想像し、絵にして楽しんだ
2 月：グループに分かれていろいろな動物の本物の鳴き声を聴き、聴こえた通りに発声してみる。英語講師から外国での表現を教えてもらう。
3 月：外国の鳴き声の聴こえ方を様々な楽器で表現してみる。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・国旗絵本　・世界食事おもしろ図鑑　・地球儀　・国旗カード　・図鑑
・iPad　・画用紙　・模造紙　・クレヨン　・世界の絵カード　・世界一周ゲーム

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・3 歳児 3 名　4 歳児 8 名　5 歳児 4 名　計 15 名　(4 グループに分かれて活動)

① 英語講師が日本と他国との違いについて疑問を投げかけると、遠足を終えたばかりの子どもたちは外国の食事やお弁当に興味を示し、日本とアメリカのお弁当を絵にしてみることになった。

② その後、更に他国の食事にも興味が広がったため、子どもたちがグループ毎に地球儀や図鑑、iPad 等を用いて好きな国を選び、食事について調べた。「コロンビア」「イギリス」「韓国」「セントクリスファーネイビス」の料理を詰め込んだお弁当箱の絵をそれぞれ描き、各国の料理について発表しあった。

③ 実際にある国ではなく、もし自分が作る国があったらどんな国にしたいか想像を膨らませ、絵に描き、発表しあって楽しんだ。国だけではなく様々な音にも興味を持ち始めたので英語の鳴き声についても探求を深めた

④ スピーカーで動物の鳴き声を聴き、グループ毎にどう聴こえたかを発表する。

⑤ 英語講師から外国の動物の鳴き声の表現方法を教えてもらい、声に出してみて、日本での表現や自分の耳で聴いた音との違いに興味を持つ。

他の音も外国の人には違って聞こえているのか、疑問を持ち調べることになる。

⑥ 楽器を使って外国の聴こえ方の音を表現する。リズムで音を覚えて楽しむ。

⑦ 英語講師と一緒に、絵カードを見ながら英語の発音を楽器で表現した。

講師の英単語の発音を聴いて、アクセントやリズムを楽器で表現した。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

① 英語講師：「日本とアメリカの違いは何があるかな？」

子ども：「お寿司は日本だね」「アメリカのチキン好きだな」「ケンタッキーのおじさんはアメリカの人かな」「いくらは日本の食べ物？」「アメリカのお昼ごはんはランチっていうんだよ。パパがバーガーとチップスがお昼ごはんって言ってたよ」「アメリカには遠足があるのかな」「ピクニックじゃない？」「アメリカの子どもはお弁当持っていくのかな」

遠足直後の時期だったこともあり、自然と話題がお弁当のことになる。

グループ毎に日本とアメリカ、双方の国のお弁当をイメージして絵にしてみる。

② 図鑑や絵カード等を見て、他の国の食べ物も気になる様子。

子ども：「この旗の国はどんな物を食べているのかな？」「辛そうな旗に見えるな」「デザートが美味しそう」「お肉が美味しそう」

保育士：「他の国の食べ物も調べて絵にしてみる？」

子ども：「食べ物の名前も調べてみたい」

【１グループ：コロンビア】

アパレ・バンデハパイサ・モンドンコ・ペロカリエンテ・エンパナーダ・ブニュエロ「エンパナーダは餃子の皮みたい」「サクサクしてそう」　「タマーレスバナナの葉に包まれている感じだね」

【２グループ：イギリス】

フィシュ＆チップス・スターゲイジパイ・カレー・ハギス・レモンケーキ・アフタヌーンティー・クリスマスディング「イギリスの料理って高級そうだね」「お肉大好き」「これは焦げ焦げだね」「スターゲイジーパイっておもしろい形」

【３グループ：韓国】

韓国餅・ジャンカルグクス・ビビンバ・キンパ・サムゲタン・キムチ・トルネードポテト・ホットク「辛いの大好き」「カレーうどんみたいな感じかな」

【４グループ：セントクリストファーネイビス　】

仔豚の丸焼き・ロブスター・パエリア・ソルトフィシュ・クックアップ「亀は食べられないよ」「仔豚の丸焼きは可哀想」「食べられない物がいっぱいだ」

③ 子ども：「自分の国があったら面白そう」「どんな国旗にしようかな」「美味しいごはんも考えたいな」

グループ毎に、自分達が考えた仮想の国の国旗や食事を考え絵にして楽しんだ。

⑧ 動物の鳴き声を聴いて、聴こえたとおりに発音してみる。

犬→「ワンワン」「ワウワウ」「アンアン」「ファンファン」

ネコ→「ミアオミアオ」「ミャアミャア」「ニャンニャン」

羊→「メーメー」「ウェウェ」「モエモエ」

牛→「モーモー」「モーアーアー」「モアーダ」

⑨ 子どもたちが聴いた鳴き声と外国での表現の違いに驚く。

「確かに聞こえるね」「そんな感じするね」「なんで聞こえ方が違うのかな？」

「他の音はどんなふうに聴こえるのかな」

散歩中の音

バイクの音→「ボンボン」「ドドドド」

風の音→「ザワザワ」「サワサワ」「サササササ」

車の音→「ボウボウボウ」「ブオーブオー」「ガタンガタン」

足音→「ドンドン」「パタパタ」「ダダダダ」鳥→「ピッピッ」「ピヨピヨ」

波→「ザザザザ」「ザーザー」

部屋の音

戸を叩く→「コチコチ」「コンコン」「ゴンゴン」「トントン」

楽器の音

太鼓→「ドンドン」「ドッチドッチ」シンバル→「カーンカーン」「カッキーン」タンバリン→「パンパン」「パチャコパチャコ」鉄琴→「チャリンチャリン」

⑩ 英語講師と一緒に、絵カードを見ながら英語の発音を楽器で表現してみる。

[Potato] [Banana] [Water Melon]

講師の英単語の発音を聴いて、アクセントやリズムを楽器で表現した。

始めは自信がなさそうな様子の子が多かったが、活動を続けるうちに楽しくなってきたようで、友達と楽器を交換し合いながら繰り返し行っていた。

⑪ 「HOT　POTATO」「ABC ソング」の曲を聴き、音楽に合わせて楽器を鳴らして遊んだ。子どもたちは、英語の発音をしながらリズムにのって盛り上がっていた。

５．振り返り

お台場は観光地でもあるため、散歩中に旅行中の外国人から声を掛けてもらったり、外国籍の英語講師や保護者と会話を交わしたりと、日頃から日本以外の文化に触れる機会がある。そのため、今回のテーマは子どもたちの興味が自然と湧きやすく、親しみやすいものであったと思う。グループ活動の中で、意見交換をしたり、役割分担を行ったりしながら意欲的に活動が広がっていき、クラス全体でも話し合いを設け、次への活動の流れを子どもたち同士で考えていた。

<振り返りによって得た先生の気づき>

この活動を開始する直前のタイミングで遠足があり、その際に保護者に作って貰ったお弁当が子どもたちにとってとても印象深かったようで、自然と話題が食事やお弁当のことになっていった。どのタイミングで活動を行うかによって、活動の広がり方が異なっていくのだということを感じた。

この度の取り組みでは、結果として世界の料理に子どもたちの興味が膨らみ、自分たちで積極的に図鑑や iPad で調べたり、地球儀を回してその国の位置を確かめたりしながら、発言や活動がたいへん意欲的なものになった。今後は実際に、子どもたちが調べた国の料理を保育園で作って食べてみる機会を設けられたらと考えた。

日本と外国の発音の違いや、日本にはない音を子どもたちは疑問に感じながら、自分達なりに発音したり、楽器で表現したりしながら文化の違いを受入れようとしていた。

子ども達の興味関心は続いているため、今後は英語だけではなく、韓国語やフランス後など他国の聞こえ方や発音を学ぶ機会を設けていきたいと感じている。

日本とアメリカの違いについて子どもたちと考えた。

世界地図で日本とアメリカの領土を見つけ「アメリカは大きいね」「日本は小さいけど恐竜みたいな形をしているね」

図鑑を見ながらいろいろな国がある
ことを知った。

４グループに分かれて、好きな国
や行ってみたい国の郷土料理を
お弁当箱の中に描き入れ発表
した。

鳴き声のサウンドを聞き、どう聞こえるかグループで話合いをした。

英語の発音を、音で覚えようとなり、楽器を使って歌を歌ったり物の発音をして楽しんだ。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	港区台場２-２-３
園名	アスクお台場保育園

１．活動のテーマ

<テーマ>

音楽絵本をつくってみよう

<テーマの設定理由>

劇遊びや遊戯、身体表現等の保育活動において、音楽に合わせて踊ったり身体を動かしたりすることを好み、自分たちなりに振付や動きのアイデアを出し合う姿があったため、すくわくプログラムを通してより音楽や様々な音からイメージしたことを子どもたちが自由に、さまざまな方法で表現できたら良いと考えたため。

２．活動スケジュール

11 月：様々な音楽を聴き、イメージしたことを絵にしてグループ発表する。

12 月：「ブレーメンの音楽隊」絵本のＢＧＭを聞き、音のイメージをグループで発表する。その後、自分たちで も内容に沿ったＢＧＭを作る。

１月： ストーリーを考え、絵を描き、手作り絵本を作成した。その絵本に様々なものを使ってＢＧＭをつけて楽しむ。エッグマラカス・レインスティックの音を鳴らして、中身を想像してみる。

2 月：廃材に物を入れて音を出す。高い音や低い音を作ってみる。

3 月：子どもの作った楽器で演奏を楽しむ。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・CD　・スピーカー　・絵本　・タンバリン　・ウッドブロック　・シンバル　・木琴　・トライアングル　・太鼓　・画用紙　・クレヨン　・プロジェクター　・廃材　・キーボード

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

- エッグマラカス、レインスティックの音を聞き、音が出る仕組みを想像して意見をグループで話をしてみる。
- 牛乳パックや空き箱などの廃材物を使い、その中におはじきなど小さな玩具を入れて音作りをする。
- 作った廃材物の楽器を使い、演奏を楽しむ。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

① ヒーリングミュージック：「気持ちいい感じ」「山の中にいる感じ」「スパゲッテーみたい」「クルクル回っている感じ」「ペロペロキャンディーみたい」「水がサーと流れているみたい」「水・鳥・山が見えていた」

ディズニー音楽：「花火がドカンドカンうるさい感じ」「新幹線がスピードあげている感じ」「牢屋に閉じ込められているね」「地球がみえる」

曲を聞きながら踊りだす子どももいた。

② 『ブレーメンの音楽隊』の絵本をプロジェクターと音源を使って視聴する。

ロバの場面→「可哀想」「泣きそうになる」森の中を歩く場面→身体をゆらゆらさせて踊る子ども　泥棒を追い出す場面→「大変そう」「面白そう」

『ブレーメンの音楽隊』の各場面を楽器や廃材を使って表現する。

「引っ掻く音は折り紙をちぎろう」「足音はカップだね」

はじめはグループの仲間と音を合わせる難しさを感じている様子であったが、リズムに乗り始めると演奏しながら部屋中を行進していた。

③ 絵を描くことが好きな子ども達から、自分で絵本を作ってみたいという意見がでたため、子ども達の意見をまとめながらひとつのストーリーにしていった。

保育士：「どんな絵本にする？」

子ども：旅人が山に行く→山は凸凹してしんどい山→動物に出逢う→旅人逃げる。→動物追いかけてくる→動物が果物をくれる→旅人・動物と一緒に果物を一緒に食べる

グループで場面を絵にして紙芝居にする。

題「おやまのピクニック」に決まる。

木琴・シンバル・ウッドブロック・太鼓・廃材・スピーカーを使用し「元気な感じにしよう」「スピードが出ている感じにしよう」「食べる音は卵のパックを使おう」「楽しい感じはこんな感じかな？」「太鼓を思いきり叩こう」「缶も歩く音に出来そうだな」

グループで話をしながら音をつけて賑やかに楽しんでいた。

④ 音楽講師：「マラカスの中には何が入っているかな？」

子ども：「つぶつぶの小さなもの」「銀色の何かが入っているのかな」

音楽講師：「レインスティックの中には何が入っているかな？」

子ども：「小さな粒々の石」「黒い点のある釘」「釘が当たって音が出ている」

・紙コップの中に、ペットボトルの蓋・カプセル・チェーンを入れて音を作る。

「全部、違う音がするね」「かわいい音がする」「元気な音がする」

⑤ 廃材物を使い、部屋の中の物で音を作ってみる。

「大きなキャップは低い音になるね」「たくさん入れると低い音になるね」

「少し入れると高い音だね」

保育士：「お台場海浜公園の海の砂でも音が作れるかな？」

子ども：「やってみたい」「レインスティックの音が出来そう」

・お台場海浜公園へ行き、廃材で音作りを行う。

「砂をたくさん入れたのと少ないのとでは、音が違うね」「カップを重ねて揺らすとシャカシャカ音が鳴るよ」「○○ちゃん、せーの！で音を鳴らそう」

「砂と石の音を作ってみよう」「貝殻と石を入れると音がよくきこえるよ」

音楽講師：「このジュースの缶の中にたくさんの水と少しの水を入れてみよう」

子ども：少量の水→「高い音だね」「よく響くよ」

大量の水→「低い音だね」「音があんまりしないから叩きすぎて缶に穴開いたよ」「音が響かない」

⑥ ジュースの缶で、水と砂を調節し音階を作る。

「その音はドだね」「ミに聞こえる」「ドレミファソラシドに聞こえてきた」

水と砂の両方「ドレミの歌」を歌いながらジュースの缶をグループごとに叩き

⑦ 演奏する。「おもしろい」「他の曲もやってみたいな」

５．振り返り

効果音作りでは、楽器だけでなく廃材からも音が作れることに驚き、家から色々な廃材を喜んで持参するようになった。楽器と廃材、両方を使って効果音をつけて楽しむ中で「自分たちでお話を作りたい」と遊びが展開していった。グループ毎にオリジナルの物語の内容を決めたり絵を描いたりする姿はとても意欲的で、集中して楽しめており、この活動後も、園や家庭で手作りのお話を披露している子がいた。

身近な物を使い自分たちで音作りができたことで活動以外でも「その音、壊れそうな音だよ」「このおもちゃ、きれいな音がするね」と言い音に関心を示していた。

お台場海浜公園の砂場では、海の心地良い風に当たりながら、音作りに関しての意見も飛び交い賑やかに音作りを楽しんでいた。砂浜の音だけではなく、鳥の鳴き声や波の音も作れないか考える子どももいた。

<振り返りによって得た先生の気づき>

日頃、歌を歌ったり、リトミックで身体を動かしたりすることが好きなクラスなので、音を聴くとイメージが膨らみ、意見もたくさん出て活動を楽しんでいた。

家庭にも協力をお願いして廃材物をたくさん用意していただいたことで、様々な音を作ることができ、保護者も活動への興味を持っていた。

普段の保育で「森のくまさん」のうたを歌っていたせいか、今回手作りした紙芝居はその歌詞からのイメージで内容が膨らんだように思えた。

3.4.5 歳の異年齢クラスなので年長児がグループのリーダーとなり年下児にリズムの取り方を指導しながら、子どもらしい素敵な作品に仕上がった。

日頃の保育では既製の楽器を使用して合奏などを楽しんでいたが、今回の取り組みを通して自分でも楽器が作れることを知り、興味関心を持って楽しんでいた。

特にお台場海浜公園に出向き砂浜で音を作る際は、子どもたち同士で積極的に意見を出し合う姿が見られ、活動がより広がっていったのを実感できた。

さまざまな音楽を聞き
グループでイメージした風景
や物を模造紙に描き入れた。

「ブレーメンの音楽隊」の話を聞き
場面ごとにイメージした音を身体や
玩具を使って音をつけた。

ブレーメンの音楽隊のように自分
たちで物語が作りたいということで
「おやまのピクニック」という題の
話が完成する。

廃材にお台場海浜公園の砂や貝殻を入れて音を作る。「砂をたくさん入れたのと、そうじゃないのとでは音が違うね」などいろいろな発見があった。

少量と多量の、水と砂の缶を作り音の違いを比べる。

音階に仕上がり、「ドレミの歌」の曲に合わせて演奏を楽しんだ。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	港区台場２-２-３
園名	アスクお台場保育園

１．活動のテーマ

<テーマ>

からだのつくり

<テーマの設定理由>

3.4.5 歳が同じ部屋で活動する異年齢クラスなので、他児との競争ではなく自分なりの努力や工夫で自らの能力を伸ばし、達成感や自信に繋げていけるような活動がしたいと考えたため。
また、運動に自信がなく体育活動に消極的な児にも「努力や工夫をすれば以前の自分よりもうまくなる、少しずつできるようになる」ことに気が付き、身体を動かすことの楽しさや仲間と励まし合うことのよさを感じて欲しいと考えたため。

２．活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、保育士と協同して助言をおこなう。
11 月：一人ひとり「走る」「バランス」「ジャンプ」「押す」「引く」「柔軟」の 6 項目の測定を行い、それぞれの違いについて探究をした
12～2 月：体操講師と一緒に、記録を伸ばすために必要な運動を行う。
3 月：3 カ月の成果を測る記録測定を行う。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

記録用紙→11 月及び 3 月の記録を記入するために使用
マーカー→運動の目印に使用
3 ステップハードル→走る距離を伸ばす運動に使用
大縄跳び・縄跳び→ジャンプ力を伸ばす運動に使用
マット→押す力を伸ばすための運動に使用
タイマー・ストップウォッチ→記録を測定するために使用

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

① 「走る」「バランス」「ジャンプ」「押す」「引く」「柔軟」の６項目を個別に測定し、記録用紙に残す。自分は今どれくらいできるのかを知り、今よりも更にできるようになるための活動に意欲的に参加していく。
② 体操講師にいろいろなことを教えてもらいながら、各種の運動器具を使ったり、身体を動かすゲームを楽しんだりして身体のさまざまな部分を充分に動かし、体力をつけていく。
③ 活動の締めくくりとして再度６項目を測定し、以前よりも記録が伸びたことや良くなったところを喜び合う。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり

体操講師：「走る、バランス、ジャンプ、押す、引く、柔軟の力はどうやったら伸びるかな？」
子ども：走る「かけっこ」「足踏みを急いでする」「サッカー」
バランス「リトミックのトンボのポーズ」「ケンケン」「目をつぶって片足で立つ」
ジャンプ「トランポリン」「リトミックのうさぎのポーズ」
押す「壁を押す」「床を押す」「床を押しながら歩く」
引く「綱引き」「縄跳びを引っ張り合う」
柔軟「体操を毎日する」「身体を前にした時、友だちの背中を押す。

【広い公園で３ステップハードルを跳ぶ】
子ども：「遠くに跳べるようになった感じがする」「しんどいけど、楽しい」
「記録が伸びそう」「毎日やったら足早くなりそうだね」
「縄跳びは難しいけど頑張る」

【部屋で綱引きを行い、引く力をつける】
体操講師：「綱引きに勝つにはどう身体を動かしたらいいかな？」
子ども：「負けないと思うこと」「力いっぱい引っ張る」「手が痛くなるからやりたくないな」

【部屋でマットを押し押す力をつける】
子ども：「先生、負けないぞ」「手が痛いよ」
負けてしまい涙を流す子どもが数人いた。

【手押し相撲】
マーカーの上に対面に立ち、マーカーから出たら人が負け。
体操講師：手押し相撲は勝つためには、どうしたらいいかな？
子ども：「相手の手をよく見る」「逃げる」「負けずに押す」

【早く走るには】
体育講師：足をどんな風に使ったら早く走れるかな？
子ども：「ペンギンの手で走る」「手を振らないで足のみで走る」「手を思いきり振る」「パーの手で振る」
ストップウォッチで測定するとグーの手とパーの手では、パーの手が早いことが分かる。
子ども：「覚えておこう、運動会はパーの手で走るぞ」「パーの手は風を切れるからかな」「テレビのハンターもパーの手だよね」

5.振り返り

子どもたちは、最初に測定した記録に固執することなく「この動きは〇〇の力がつくんだな」と考えながら身体を動かしていた。
ゲーム方式で行った際は、負けてしまって悔し涙が出たり喜んだりしながらも、賑やかな雰囲気で楽しんでいた。
広い公園内では、3 ステップハードルを使い、高さに変化をつけながらどの子どもも夢中になって身体を動かしていた。
様々な力を付けることが当初の目的であったが、子どもそれぞれが楽しみながら描く活動に参加することができていた。活動の最後に 3 カ月間活動に取り組んだ結果記録を測定したが、記録には余り興味は示さなかった。

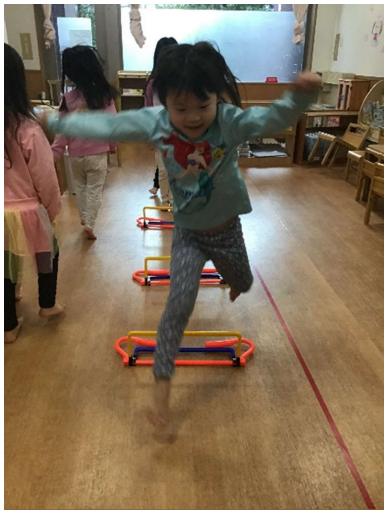
<振り返りによって得た先生の気づき>

普段から身体を動かすことが好きなクラスなので、課題を一生懸命取り組んでいた。
3.4.5 歳の異年齢クラスで体力の差があり、年少児のサポートを年中年長児が援助しながら進めている姿も多く見られた。
記録だけではなく一つのことを一生懸命取り組む姿は、見ていて子どもたちのたくましさを感じ取れた。今後も、保育の中で目標を決めながら様々な活動を取り入れていきたいと思う。

マーカーを使用して、自分のジャンプ力を知る。

押す力では、体操講師に負けない力を出すにはどのようなことに意識して手・足を使うか学んだ。

走るのが早くなるにはどうしたら良いか考えペンギンの手と手を大きく振る 2 つの実験を行う。



3 ステップハードルを使用し、走る・ジャンプ力を鍛えた。